

アートによる探究的な保育実践の可能性

ーレッジョ・エミリア市の乳幼児教育における学びの可視化と対話の実践からー

2018. 7. 4 (水) 16:30 - 18:00

要・事前申し込み

東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系4号館 2階 美術教育演習室

待機児童などの保育の受け皿としての問題が注目されるなか、現場では保育の質的向上の様々な取り組みが模索されています。レッジョ・エミリア市の乳幼児教育はそうした保育の質とは何かという問いに対し、その先駆的で創造的な思想と実践で世界中に大きなインパクトを与え続けています。今回はレッジョ・エミリア市の乳幼児教育に造詣の深い森真理先生を講師にお迎えし、アートによる多様な探究活動の実際と、それを支えるドキュメンテーションとポートフォリオを活用した対話的な保育実践をご紹介いただき、子どものゆたかな育ちと学びを生み出す保育実践の可能性について考えていきます。

16:30 開会の挨拶

欽矢 悦朗 東京学芸大学 教授／デザイン教育

特定非営利活動法人 東京学芸大こども未来研究所 理事長

講演 アートによる探究的な保育実践の可能性

ーレッジョ・エミリア市の乳幼児教育における学びの可視化と対話の実践からー

講師 森 真理 鶴川女子短期大学 国際こども教育学科 教授

日米の幼稚園に勤務。コロンビア大学教育大学院にて教育学博士号(Ed.D.)を取得。保育者養成並びに保育者現職研修に従事し、レッジョ・エミリアでの研修コーディネーター及び翻訳を務める。研究分野は保育内容国際比較、子ども理解を深める保育のありかた、レッジョ・エミリア市の乳幼児教育の理論と実践との対話。

17:50 トークセッション

森 真理

欽矢 悦朗・真木 千壽子 学芸の森保育園 園長

笠原 広一 東京学芸大学 准教授／美術科教育

18:00 終了

■助成：公益財団法人日本生命財団 平成29年度委託研究

課題名「幼児教育における子どものアート活動を媒介とした多様性の涵養と親の学習支援プログラムの構築」

■主催・申し込み先：東京学芸大学（美術科教育学分野）笠原広一研究室 [kasahara\(a\)u-gakugei.ac.jp](mailto:kasahara(a)u-gakugei.ac.jp)

※(a)をアットマークに変えてください。申し込み受付後に会場案内を送ります。

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 Tel & Fax: 042-329-7610